

学校評価に係る意識調査（保護者、児童、教職員）についての考察

1 「教育活動評価アンケート」集計表（対象；保護者）

（1）評価

- ・数値は「そう思う」、「おおむねそう思う」を合わせた肯定的な回答数の割合（％）を  
 ※90％以上：A 80％代：B 70％代：C 60％代：D 50％代：E 50％未満：F  
 ※上段；令和4年度、下段；令和3年度の回答  
 ※○印は昨年度よりポイントが上がった項目です。

No	設 問	全校
1	お子さんは、楽しく元気に学校に通っている。	A A
②	お子さんは、基礎・基本を身につけている。	A A
3	お子さんは、授業内容を理解している。	A A
4	お子さんは、家庭学習に自分から取り組んでいる。	D C
5	お子さんは、本をよく読んでいる。	E E
6	お子さんは、元気に自分からあいさつをしている。	C C
7	お子さんは、思いやりがあり、やさしい行動ができている。	A A
8	お子さんは、友達と仲良く生活できている。	A A
9	お子さんは、運動に進んで取り組んでいる。	B B
⑩	お子さんは、望ましい生活習慣を身につけている。	A B
11	教職員は、熱意を持って教育にあたっている。	A A
12	教職員は、ひとりひとりの子どもを大切にされた指導や支援を行っている。	A A
13	教職員は、わかりやすい授業をしている。	A A
14	教職員は、授業内容や指導方法の工夫をしている。	A A
⑮	学校は、教育方針や子どもの様子を学校・学年だよりやHP、参観日等で公開している。	A A
⑯	学校は、家庭への連絡や相談をきちんと行っている。	A A
17	学校は、何かあった時、すぐに対応している。	A A
⑱	学校は、子どものことについて気軽に相談できる体制をとっている。	A A
19	学校は、登下校や学校生活の子どもの安全確保をしている。	A A

20	学校は、不登校やいじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる。	B A
21	学校の年間行事計画や、授業参観の時期や回数は適切である。	A A
22	学校は、小規模校の特性を生かした教育活動を展開している。	B A
23	学校は、家庭、地域との連携を大切にしている。	A A
24	学校は、タブレット端末などの ICT 機器を積極的に使っている。	B /

## (2) 考察

昨年度よりも数値が上昇した項目が6、下降した項目が17、新規項目が1となった。今年度は新型コロナウイルス感染症が収束しない中ではあったが、感染対策を講じながら、修学旅行や林間学校が宿泊で実施できたり、地域との交流や活動が実施したりしてきた。本評価収集時点では、未実施の校外学習や地域との活動が残されているが、評価の低い項目は真摯に受け止め、年間の活動の計画を見直し、来年度以降のよりよい教育活動の展開につなげていきたい。

(No.1) 様々な教育活動が出来るようになってきてはいるが、黙食などは続いている。

コロナの影響を感じさせないような「えがおとつながり」を大切に活動を展開していきたい。

(No.2) 昨年度より取り組んできた様々な授業研修の成果が徐々に表れてきたものと考ええる。

(No.3) 教員の若返りが進み、授業力の向上が課題となっている。研修を充実させ、改善を図っていきたい。

(No.4) 家庭学習の習慣化は本校の経営の重点である。タブレットの活用や内容を見直すなど、改善を図っていきたい。

(No.5) 読書に関する項目は、全体的に下がっている。ブックリンピックの充実、司書と連携した授業づくりなど、具体的な対策を図り、学校全体で本好きな児童を育てていきたい。

(No.6) あいさつの大切さは、松風会（学校関係者評価委員会）でも議論となった。今年度、児童会があいさつ運動を実施したが、各児童が学校内外を問わず、誰に対してもあいさつをし、つながりを深めていけるよう指導を続けていきたい。

(No.7) 本校はまだまだ小規模校であり、学年に関わらず子供同士の結びつきが強い。児童同士の人間関係や、クラスの団結力が強まる指導を行っていき、豊かな心を育てていきたい。

(No.8) 数値は下がったが、昨年度 98.1%、今年度も 96.5%と高い数値を示している。全児童が、誰とでも仲良く楽しく生活できるよう、指導・支援をしていきたい。

(No.9) 全校による運動会が3年ぶりに開催できた。持久走大会やリズム縄跳びの実施もできている。それらの取り組みを通し、各児童が自ら運動しようという意識につながるようにしていきたい。

(No.10) 登校時間の徹底や時間を守った行動をとる指導を繰り返して行ってきた成果と捉える。生活リズムや食生活を整えるなど保護者の方々の協力・連携も大きな要因と考える。

(No.11) 若手教員が増え、学校内はやる気と熱気を感じる。今後もそれを生かした教育活動を行っていきたい。

- (No.12) 学習における個々の実態を把握し、変容をキャッチしながら、個に応じた指導をしていきたい。
- (No.13) 教員間で学習のルール作りを行い、県の授業実践モデルプログラムなどを参考にし、わかりやすい授業づくりに心がけていきたい。
- (No.14) おおむね好評価をいただいているが、児童の実態を的確にとらえ、学習の理解・定着のために何が必要かを考え続ける姿勢を大切にしていきたい。
- (No.15) 今回の保護者アンケートで一番評価を得た項目である。今年度より学校だよりなどの各種の定例おたよりを学校メールで配信している。HP の充実を図っていることも評価が上昇した要因と思われる。
- (No.16) 学校メールを活用した体調連絡や悩みごと等の相談連絡を受けているが、レスポンスを速めるよう全職員で意識している。そういった取組みが評価上昇の要因であると思われる。
- (No.17) 好評価を得ている項目の1つである。今後ちょっとした児童の変化について、職員間および保護者様との会話を怠らないように努めていきたい。
- (No.18) 日常的に保護者とコミュニケーションを大切にしているまた、SC の配置や教育相談日の設定など、相談しやすい体制を整えてきた。さらに充実を図りたい。
- (No.19) 不審者等の情報の多発が不安を駆り立てていると思われる。学校メールでの速やかな情報配信にこれまで以上に力を入れ、地域や保護者と連携を図り、安全確保に努めていきたい。
- (No.20) いじめの解消に時間を要したことが、評価が下がった理由の1つにあると考える。「いじめは絶対に許さない」という強い意識で、全校で共通理解を図り、よりよい学校・学級づくりに努めたい。
- (No.21) 保護者来校による授業参観や懇談会等の実施が評価上昇の要因であると思われる。来年度も、よりよい行事の計画立案・実施を図っていきたい。
- (No.22) 例年のつながり活動（縦割り活動）はもちろん、今年度は体育委員会主導による「全校だるまさんがころんだ」を行ったりした。
- (No.23) 今年度は、地区社協のご協力を得ながら、日本の遊び（昔遊び）や劇団ピッコロによる人形劇などの実施をした。行事だけでなく、授業も含め、常日頃から連携を図りたい。
- (No.24) 評価が「B」にとどまったのは、タブレット端末の有効活用が図れていないためだと思われる。必要性を感じられる持ち帰りなど、課題を一つずつ解決していきたい。

2 「学校生活アンケート」集計表 (対象；児童)

(1) 評価

・数値は「そう思う」、「おおむねそう思う」を合わせた肯定的な回答数の割合(%)を

※90%以上:A 80%代:B 70%代:C 60%代:D 50%代:E 50%未満:F

※上段；令和4年度、下段；令和3年度の回答

※○印は昨年度よりポイントが上がった項目です。

①	学校は、楽しい。	A A
2	学校の勉強がわかる。	A A
③	授業中、先生や友だちの話をしっかり聞いている。	A A
4	自分の考えを発表している。	C C
⑤	自分からすすんで、家庭学習をしている。	C D
6	クラスには、いっしょに遊んだり相談したりできる友だちがいる。	A A
⑦	学校のことを大切にしている。	A A
8	自分から進んで運動している。	B B
9	外遊びをしている。	B B
⑩	あったらおじぎ、いつも、さきに、つたえたい気持ちで、あいさつをしている。 あかるく、いつも、さきに、つたわる大ききで、あいさつをしている。	B B
⑪	給食をすききらいなく食べている。	B B
⑫	掃除にいっしょうけんめいとりくんでいる。	A A
13	本をよく読んでいる。	D C
14	図書室をよく利用している。	F E
15	音読がすき。	D D
16	安全に注意して登下校している。	A A
17	学校で火事や地震がおきた時、どうしたらよいか知っている。	A A
18	先生は、ひとりひとりに話しかけたり、話をよく聞いてくれたりする。	A A
19	先生は、がんばったことをほめてくれる。	A A
⑳	地域の活動に進んで参加している。	E F

21	学校のきまりを守っている。	A A
22	運動会やつながり活動などの行事にいっしょうけんめい取り組んでいる。	A A
23	先生はタブレットなどのきかいを使って授業を進めている。	B /

## (2) 考察

昨年度よりも数値が上昇した項目が9、下がった項目が11、同じ割合の項目が2、新規項目が1となった。

- (No.1) 評価が上昇し、喜ばしい項目の1つである。子供たちがより満足感を得られるように、今後も「えがおとつながりを大切に」した学校づくりに努めていきたい。
- (No.2) 教室は最も重要な学習環境である。子供の思考や学びを引き出すために安心できる、何でも言える学習環境づくりをし、「わかる」につなげていきたい。
- (No.3) 評価が上昇した。しっかりと話を聞くことは、本校が学びのテーマとして掲げている「主体的な学び」にもつながる重要な要素である。今後も聞く姿勢を大切にしたい指導を継続していきたい。
- (No.4) この項目は、本校の課題の一つである。考えを持たせるための手立てや表現力の向上、安心して発表できる学級づくりなどをし、児童をより良い方向に導きたい。
- (No.5) 保護者の評価は(数値として)下がったが、児童の評価は上がった。タブレット端末の持ち帰りなどをうまく活用し、保護者のニーズを捉え、子供たちの家庭での努力を保護者にも知っていただくチャンスとしていきたい。
- (No.6) どの児童も教室に居場所があり、安心感をもって登校できるようなかかわりを教職員が意図的に生み出せるように、学校全体で取り組んでいきたい。
- (No.7) 昨年度一番高い評価であった項目が、今年度はさらに高まり99.0%である。本校は落とし物が少なく、物を大切にしようという心が子供に芽生えている。家庭教育及び学校教育の成果を感じる。
- (No.8) 陸上大会やミニバス大会での活躍が全校を刺激し、大会後には多くの児童が運動に自主的に励む姿が見られた。また、そういった意識や取組み、姿勢が継続していきけるよう、学校全体で指導していきたい。
- (No.9) タブレット端末の配布により、休み時間に端末に触れる児童が増え、外遊びを控える児童が年度当初に多く見られた。使用ルールを全校で共通理解した。来年度は、年度当初から一貫指導をし、外遊びを推奨し、運動好きな児童を1人でも多く育てていきたい。
- (No.10) 昨年度より、コロナ禍であるが、声を出して「あいさつ」する指導を継続してきた成果が表れてきた。声を出すことは悪いことではないことを教え、不安にならないよう丁寧な伝え方をしながら、あいさつの大切さを指導していきたい。
- (No.11) 食に関する授業や、給食に興味関心をもたせる取組みなど、食育の充実が成果として表れている。さらに充実を図っていきたい。
- (No.12) 15分間と限られた清掃の時間ではあるが、本校では特に、高学年児童が熱心に清掃する姿が見られる。上級生と下級生が共に清掃する箇所もあるので、高学年の良さが低学年に伝わり、よい影響となるようにしていきたい。
- (No.13) 本項目と次項目の本・図書室に関するものが、今回大きく評価を下げた。今年度は、市内のR1読書グランプリの受賞だけでなく子供の読書活動優秀実践校として「文部科学大臣賞」を受賞したが、それに恥じぬよう、本好きの子を育てる手立てを講じていきたい。

- (No.14) ブックリンピックへの関心をさらに高めるとともに、図書委員会の活動の工夫などを通して、図書室利用が増えるような手だてを打っていききたい。
- (No.15) コロナ対策として、学級で音読を控えていたが、今後進めていく音読によって、言葉の響きやリズムの楽しさを体感させたい。
- (No.16) 登下校時に走ったり、危険な遊びをしたりしながら歩いている児童がいるといった情報が学校に時折寄せられる。安全な登下校の在り方を普段の学級指導や全校での集団下校の際に伝えていききたい。
- (No.17) 今年度は、4月当初に引き渡し訓練を実施した。実施後に、なぜ行ったかを児童に聞いてみると、よく分かっていない児童が多くいることが分かった。訓練の目的を児童にしっかりと理解させていく必要があると考える。
- (No.18) 子供たちが話しやすい環境づくりには「笑顔」が何よりも重要である。教職員が「豊かな表情」をつくり、児童とコミュニケーションを図れる場を自然と設けられるよう、笑顔を心がけていききたい。
- (No.19) 前向きに学び続ける姿勢、やってみたいことに果敢に挑戦する姿勢は、尊いものである。そのために失敗を恐れず、恥ずかしい思いをしない学級環境づくりを今後も継続し、子供たちの頑張りを支援していききたい。
- (No.20) 今回最も高い上昇率を示した項目である。吹奏楽部が宮園地区のお祭りに参加したり、情報委員会が八木北小学校とオンライン交流を図ったりと、地域や他校など外部と関わってきた成果が表れたと考える。
- (No.21) 今回の児童アンケートで最も評価が高く 97.3%を示した。学校全体や他の友達のことを考えた行動は、本校児童の良さである。今後も継続していけるよう指導・支援をしていききたい。
- (No.22) 今年度は、PTAの援助も受けて、芸術鑑賞会を実施することができた。96.3%という高評価を落とさぬよう今後も精選しながら必要な行事は適切に行っていきたい。
- (No.23) 今年度は、ロボットトイ「toio」の学習に取り組み始めた。タブレット PC を積極的に活用し、より充実した授業づくりに努めたい。



3 「自己評価」集計表 (対象；教職員)

(1) 評価

・数値は「そう思う」、「おおむねそう思う」を合わせた肯定的な回答数の割合(%)を

※90%以上:A 80%代:B 70%代:C 60%代:D 50%代:E 50%未満:F

※上段；令和4年度、下段；令和3年度の回答

※○印は昨年度よりポイントが上がった項目です。

1	児童は、楽しく元気に学校に通っている。	A A
②	児童は、基礎・基本を身につけている。	A A
3	児童は、授業内容を理解している。	A A
④	児童は、家庭学習に自分から取り組んでいる。	D E
⑤	児童は、本をよく読んでいる。	C E
6	児童は、元気に自分からあいさつをしている。	F D
7	児童は、思いやりがあり、やさしい行動ができている。	A A
⑧	児童は、友達と仲良く生活できている。	A A
9	児童は、運動に進んで取り組んでいる。	A A
10	児童は、望ましい生活習慣を身につけている。	B A
11	自分は、熱意を持って教育にあたっている。	A A
12	自分は、わかりやすい授業をしている。	B A
13	自分は、授業内容や指導方法の工夫をしている。	B B
14	自分は、図書室活用・読書指導を進めている。	C C
15	自分は、小規模校の特性を生かした教育活動を図っている。	C A
16	自分は、笑顔で子どものやる気を促し、豊かな表情で子どもとかかわっている。	A A
17	自分は、家庭への連絡や相談をきちんと行い、「誠意とスピード」で対応している。	B B
18	自分は、登下校や学校生活の子どもの安全に配慮している。	A A
19	自分は、不登校やいじめのない学校・学級づくりに取り組んでいる。	A A
20	自分は、地域との連携を大切にしている。	B A

21	自分は、特別支援を要する児童について、情報を共通し、適切な支援をしている。	A A
22	自分の校務分掌について着実に取り組んでいる。	B B
23	職員間は、日々の教育活動における問題や悩みを気軽に相談できるものになっている。	A A
24	職員間は、不祥事防止について意識を高めるとともに、チェック機能が働くものになっている。	A A
25	タブレット端末などの ICT 機器を積極的に活用している。	C /
26	児童は、自ら考える子に育っている。	A B
27	児童は、心豊かな子に育っている。	A A
28	児童は、たくましい子に育っている。	A A
29	八木南小学校は、“えがおとつながりを大切にする学校” となっている。	A A

## (2) 考察

- (No.1, 8, 11, 24, 27, 29) の 6 項目で 100% という全職員が肯定的な評価をしている。「100% の回答 = 満足してよいもの」であるわけではない。現状に満足せず、様々な研修を通して教師力・指導力の向上を図り、さらなる高みを目指していきたい。
- (No.2) 昨年度、6.2% あった保護者と職員の評価の差が 0.2% の差となり、かつ昨年度より教職員アンケートの数値が上がっている。保護者と足並みをそろえ、学習の土台作りをしていきたい。
- (No.3) 今年度より全学年で普通学級が 2 以上となり、学年で教材研究や授業準備ができるようになった。学年主任を中心に、「わかる授業」の展開に尽力していきたい。
- (No.4) 昨年度 50% と低い数値であったが、今年度は、66.7% まで上昇した。前述したが、児童の努力が保護者にも伝わるような取り組みを実施していく必要がある。
- (No.5) 全国学力学習状況調査のアンケート結果からは、本校の児童の読書率は高いといえる。だが、保護者や児童が評価を下げているのに対し、教職員は評価を上げており、乖離が見られる。職員が危機感をもって指導に当たらなければいけないと考え、全校での取り組みを考えていきたい。
- (No.6) 元気なあいさつは、本校児童の良さの 1 つである。保護者や教職員の求めるものはさらに高いものであるが、それに追いつけるよう今後も指導をしていきたい。
- (No.7) 本校児童の特徴の 1 つであるので、良さが損なわれることのないよう大切にしていきたい。
- (No.9) 今年度の課題である。保護者、児童、職員共に評価が下がっている。「たくましい子」の育成のために、運動に親しむ子の育成に力を注ぎたい。
- (No.10) 「あったらおじぎ、いつも、さきに、つたえたい気持ちで、は本校が最も力を入れていることである今後も継続指導をしていきたい。
- (No.12) わかりやすい授業は、自身で評価をしづらいものであり、若手教員の増加が昨年度より評価を下げた理由の 1 つと考える。若年層研修の充実を図るなどし、改善を図っていきたい。
- (No.13) 子供たちが常にめあてを意識して学習し、多くの学びを得られるようにしていきたい。



- (No.14) ブックリンピックや図書を活用した授業づくりなどに対する教職員の意識の低下は改善していく必要がある。
- (No.15) 小規模校の特性を生かして、どのようなことができるのか、一人一人が意識し、校内で十分に検討しながら教育活動を進めるようにしたい。
- (No.16) 子供たちが安心して生活するためには、教職員が笑顔で子供に関わることが大切である。そこから課題を見つけ、適切な指導・助言をし、子供たちのやる気を喚起し、よりよい成長につなげられるようにしていきたい。
- (No.17) 子供が安心して学校生活を送るには、保護者との連携が不可欠である。情報を共有し、保護者への必要な「報連相」を職員一人一人がスピードと誠意をもって行えるよう徹底していきたい。
- (No.18) 数値が下がっており、安全に関する意識が相対的に下がっているのではないかと捉える。安全は、学校教育活動の最優先事項である。油断せず、満足することなく、安全配慮を行っていきたい。
- (No.19) 全職員が「いじめは絶対に許さない」という意識で学校・学級づくりに取り組んでいる。今年度は100%を割り93.3%となってしまったが、常に100%となれるよう取り組んでいきたい。
- (No.20) 総合的な学習の時間で3年生がネギに関する学習を行ったように、本校の地域には素晴らしい人材・素材がある。今回の取り組みを好事例とし、本校ならではの地域性をいかしたより良い活動を行っていきたい。
- (No.21) インクルーシブ教育の推進のためには、情報共有と特別支援に関する専門性の向上が必要である。特別支援コーディネーターを中心に改善を図りたい。
- (No.22) 少人数の職員による構成であるが、一人一人が自覚をもち、責務を果たそうと、日々職務に励んでいる。行事や業務の精選を図り、より効率的かつ効果的に取り組めるように組織の見直し等を日々図っていきたい。
- (No.23) 96.7%と高評価である。教職員の同僚性を高める取組みをさらに進め、風通しの良い職場づくりに努めていきたい。
- (No.25) 今年度からの新規項目である。ICTの有効活用、今後も推進していきたい。
- (No.26) 前回81%→今回93.3%と大幅な伸びを見せた。主体的・対話的で深い学びの実践のため、自ら考える子の育成を、PDCAサイクルで見直し、常に改善を図っていきたい。
- (No.28) 給食を好き嫌いなく食べる子供が増えている。部活動も再開し、たくましい体づくりにつながったと考えられる。今後も、たくましいこの育成につなげていきたい。